

信頼され愛される
病院を目指して



- ② ③ 消化器内科紹介
- ④ ⑤ 新任医師紹介
- ⑥ 新任副院長あいさつ
- ⑦ 新型コロナウイルス感染症について
- ⑧ 連携施設紹介 HEALTHY COOKING

消化器内科紹介

小田原市立病院消化器科では消化器領域全般についての診療を行っています。

消化管（食道・胃・十二指腸、小腸、大腸）、肝臓、胆嚢胆管、膵臓の疾患が主な対象になります。

消化管疾患については消化管出血等の救急疾患の治療、炎症性腸疾患や逆流性食道炎等の慢性疾患の管理・治療、早期癌の内視鏡治療、進行癌に対する化学療法および緩和医療、ピロリ菌の除菌療法等も行なっています。

食道、胃、大腸の早期癌については内視鏡治療で完治できる場合も多く、内視鏡治療は消化管機能の温存にもつながります。御相談頂ければ治療適応について検討させていただきます。

一方で外科切除困難な進行癌の患者様についてはガイドラインに則った化学療法を行なっています。外来化学療法室も完備しております。化学療法の内容によりませんが、通院での治療も可能です。

また日本人はピロリ菌の感染率が高く、潰瘍や胃癌の他に胃 MALT リンパ腫や血小板減少性紫斑病等にも関係がありますので早い段階での除菌が勧められます。

炎症性腸疾患に対しては食事・薬物療法の他、顆粒球除去療法等も行なっております。

大腸ポリープは1cm以下のものは外来での切除が可能です。

拡大内視鏡等の最新の診断機器も導入しており、苦痛の少ない正確な検査を目指しています。

小腸疾患の診断についてはカプセル内視鏡検査を導入しています。検査結果判明には時間がかかりますが、比較的苦痛の少ない検査です。

肝疾患については各種ウィルス性肝炎、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎等の診断・治療、肝硬変およびその合併症（肝性脳症、腹水・浮腫、食道静脈瘤等）の治療、肝細胞癌の治療（血管塞栓術、ラジオ波焼灼術、経皮的エタノール注入療法、経口化学療法）等を行なっています。

B型肝炎、C型肝炎は近年は減少傾向にありますが、中高年以上の方の中には感染を自覚されていない方もまだまだおられます。C型肝炎については8～12週間の服薬で完治できますので、検診等を受けた際に抗体検査で陽性と診断された方は当科を受診していただければ適宜対応させていただきます。

膵臓については急性膵炎等の救急疾患の治療、慢性膵炎の治療・管理、膵臓の各種腫瘍の診断・治療を行なっています。膵臓は体の深部にあり体表面からの超音波診断が困難な場合もあるため、超音波内視鏡による診断および組織検査も行なっています。

胆嚢胆管疾患については急性胆嚢炎・胆管炎や閉塞性黄疸等の急性疾患には随時緊急 ERCP（内視鏡的逆行性胆道膵管造影）検査対応しています。

今後も市民の皆様の健康維持に少しでもお役に立てるように努力してまいります。



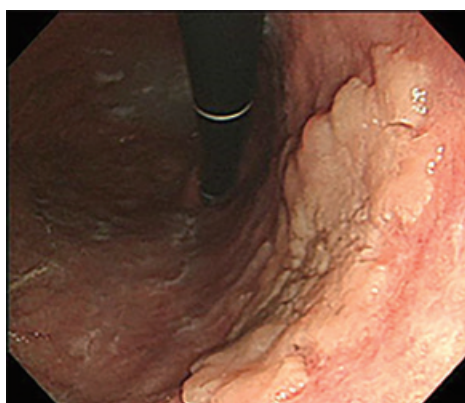
ERCP 検査

<2019 年度 症例件数>

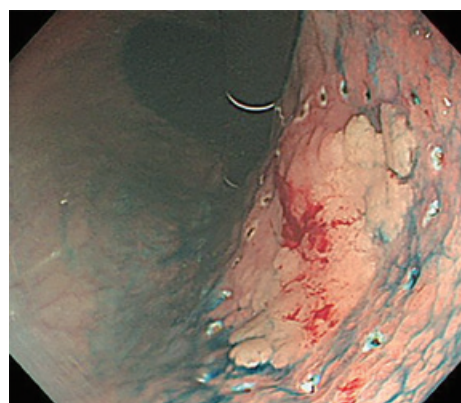
上部消化管内視鏡検査	3,017 例	下部消化管内視鏡検査	1,571 例
ERCP (内視鏡的逆行性胆管膵管造影) 195 例		ESD (内視鏡的粘膜下層剥離術) 59 例 (上部 37 例、下部 22 例)	
EMR (内視鏡的粘膜切除術) 515 例 (上部 8 例、下部 497 例)		RFA (経皮的ラジオ波焼灼療法) 1 例	
PEIT (経皮的エタノール注入療法) 1 例		EUS (超音波内視鏡) 54 例 EUS-FNA (超音波内視鏡下針生検) 6 例	

胃早期癌の内視鏡治療 (ESD) について

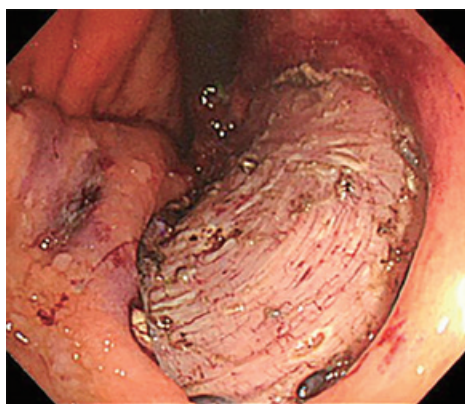
上下部消化管悪性腫瘍の内視鏡治療に力を入れています。



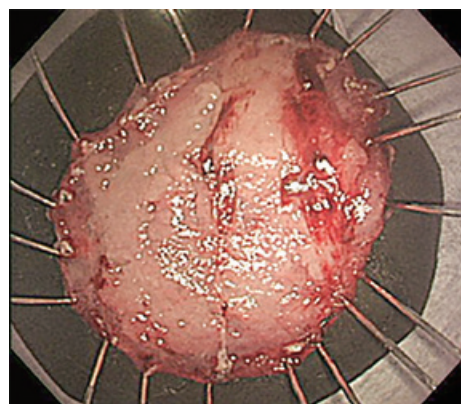
1. 胃体部早期胃癌



2. マーキング



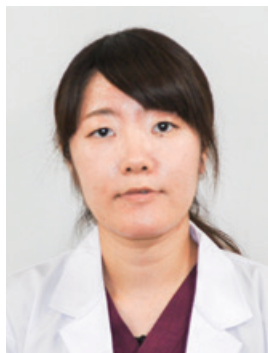
3. 切除後



4. 切除標本

新任医師紹介

新しく赴任された医師の紹介になります。みなさま、よろしくお願ひします。



糖尿病内分泌内科
医長 渡邊 薫



循環器内科
担当部長 成毛 崇



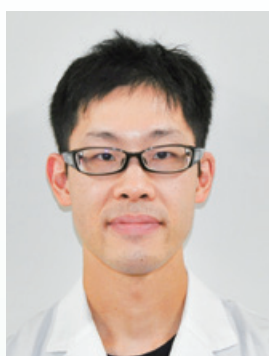
循環器内科
医長 譲原 光伯



循環器内科
医長 堀口 愛



循環器内科
医師 岩谷 俊之



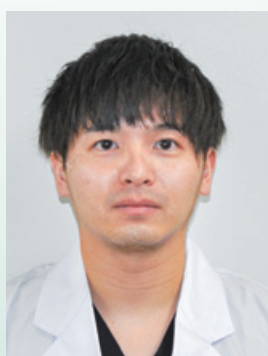
小児科
担当部長 小堀 大河



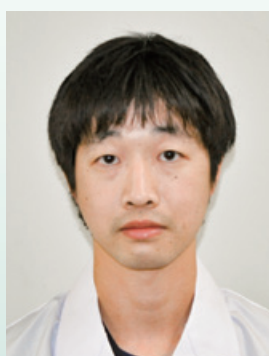
小児科
医師 落合 雄人



小児科
医師 谷川 誠一



小児科
医師 平井 祐土



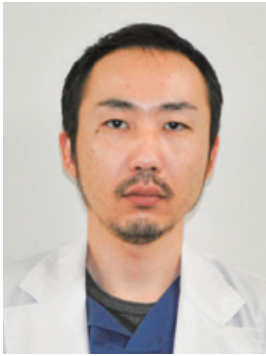
外科
医師 古田土 高志



外科
医師 周 達仁



整形外科
担当部長 河井 卓也



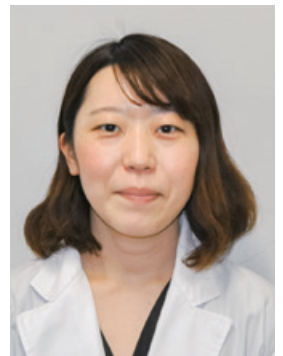
整形外科
医長 渡邊 太



整形外科
医師 薄井 新



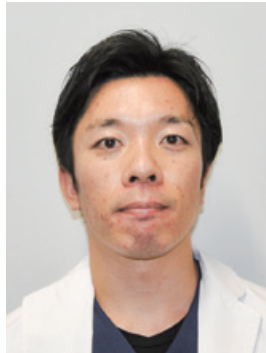
整形外科
医師 菅原 隆平



脳神経外科
医師 五林 優子



脳神経外科
医師 小倉 将



脳神経外科
医師 益子 悠



皮膚科
医師 由井 瑞絵



泌尿器科
医師 三富 崇弘



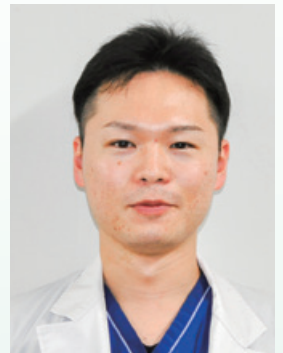
産婦人科
医師 野口 結



産婦人科
医師 土屋 尚輝



眼科
医師 栗原 大智



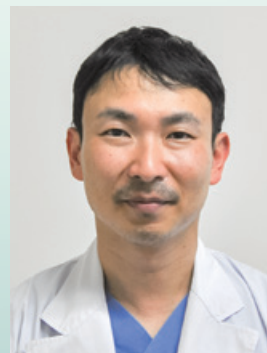
耳鼻咽喉科
医師 溝上 雄大



放射線科
医師 加来 聡一郎



麻酔科
担当部長 長野 治和



麻酔科
医長 相原 謙一



麻酔科
医長 清水 祐一郎

新任副院長あいさつ 副院長に就任して



副院長・看護部長 加藤 節子

みなさまこんにちは、本年4月より副院長を拝命しました、看護部長の加藤節子です。

病院施設の中で、最も職員が多いのは看護部で正規職員だけでも約400人が在職しております。今回看護部長を副院長職に任命いただいたことは、医療現場における看護師の役割や実践力の評価だと、とても嬉しく、またその責任に身の引き締まる思いです。

小田原を含む県西部地域は神奈川県内でも高齢化が進む地域です。高齢者は何らかの病気を持つ方が多いのですが、罹患しながらも自分らしく生活する人が沢山おられます。医療への正しい知識を持ち、生活を変えていくことは、病気の予防や悪化を防ぐ大切なポイントとなります。医療の高度化に伴い、看護も認定看護師、特定看護師、専門看護師と専門

性の高い分野が確立されてきました。認定看護師や専門看護師による「看護外来」では、インスリンなどの薬剤や医療機器や生活への指導、予防行動などに関わっています。まだまだ「看護外来」へのなじみは薄いかもしれませんが、患者さんからは、悩みを相談しやすい、医師へ困りごとをつなげてくれると好評です。今後も看護師の関わる「看護外来」に注目していただければ幸いです。

現在小田原市立病院は老朽化が進み、療養環境に支障が出ております。新型コロナウイルス感染症対策では、安全な環境を保つことに職員一丸となり取り組みましたが、狭隘化した病室では感染予防に必要なスペース確保が困難で工夫を強られる場面がありました。これからは、インフルエンザのように新型コロナウイルス感染症とも共存する時代が来ると言われております。患者さんやご家族が安心して治療・療養ができる新病院の早期建設を切に願います。

誕生から、生命の最期の場面まで看護は患者さんと共にあります。病棟でも外来でも患者さんの一番近い場所に居るのが看護師です。私たち看護師は患者さんの心と身体に寄り添い、健康を支える医療に努めて参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

看護外来とは

その分野において専門的な知識・技術を持った看護師が医師や多職種と連携し、継続して患者さん又はご家族からの相談・指導・ケアを行う外来です。

小田原市立病院ではがん看護、皮膚排泄ケア、糖尿病透析予防、フットケア外来があります。

新型コロナウイルス感染症について

副薬剤科部長・感染制御専門薬剤師・抗菌化学療法認定薬剤師 田中 大



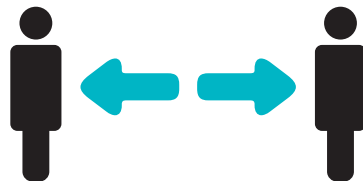
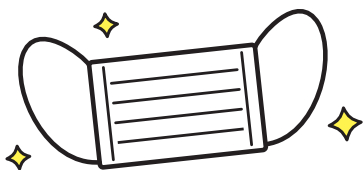
「新型」新型コロナウイルス感染症が流行しています。コロナウイルス自体は以前から複数知られており、そのうち4種類はいわゆる風邪症状を引き起こすことが知られています。しかし、今回は新たに発見された仲間による感染症のため「新型」と呼ばれ、新型ゆえに皆様に免疫と呼ばれる抵抗力がついていないことが問題となっています。

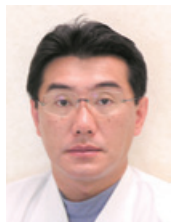
治療薬は、執筆（2020年5月13日）時点でいくつかの候補が報告されています。そのうちの一つは国から特別承認されましたが、残念ながら現時点では確立したとまで言える治療法やワクチンはなく、感染の拡大防止が重要です。しかし、新型コロナウイルスは「他の人にうつしてしまう力」が「症状が出はじめる2日前」には充分あるため、症状が出てからではなく普段からの対策が重要です。

今回のウイルスがうつる経路は、①感染した方のくしゃみや咳、つばなどと一緒にウイルスが放出され他の方が口や鼻から吸い込んで感染、②感染した方が咳などをおさえた手で周りに触れたり、つばがとんだりしてウイルスが周りに付着、そこを他の方が触ると手にウイルスが付着、さらにその手で口や鼻を触ると粘膜からウイルスが侵入すると考えられています。ただし、放出されたウイルス自体はそれほど遠くまで漂わないとされます。

そのため、マスクで咳やくしゃみ、つばをおさえることで一緒にウイルスが放出される可能性を下げる、手洗いの徹底で物などに付着したウイルスが自分の手を介して侵入する可能性を下げる、人が密集する空間を避けることで空間に漂うウイルスを吸い込む可能性を下げるなどが非常に重要となります。これらを組み合わせることが重要ですが、たとえば向かい合って話をする場合でも、お互いがマスクをすることだけでも感染リスクが減ると考えられています。

今回のウイルスはまだ不明な点が多くあります。これからも、国や関係機関などから出される新しい情報を入手し、「正しく恐れる」ようにしていただければと思います。





小澤病院は 1912 年（明治 45 年）に小田原の地で開設いたしました。内科を中心に、現在 22 の診療科と健診センターを設置し、中でも血液内科、乳腺外科、歯科口腔外科等の診療科には西湘地区で数少ない常勤医が在籍しております。『医療を通じて地域社会に貢献する』という基本理念のもと、二次救急病院として多くの救急患者様を受け入れられるよう、職員一同、日々努力しております。

また、併設の小澤高等看護学院は 1988 年の開校以来、これまでに 800 名近くの看護師を養成。病院と同様に地域の医療を支えてまいりました。

当院では年に 3 回、西湘地区の病院、診療所、施設等に勤める多職種の方が会する「医療介護連携会議（IKR 会）」を開催しております。IKR 会は、役割の違う医療機関・施設同士が「顔の見える連携」を図り、一人ひとりの患者様を様々な角度から支援することを目的

に始めました。多くの方々に参加していただいておりますが、超高齢化社会に向けた地域医療の在り方を模索するためにも、当院はこの IKR 会を通じた連携を今後も続ける予定です。

小澤病院は開設から 108 年を迎えました。これからの 100 年も急性期病院として、常に前を向いて小田原の地で貢献していく所存です。

理事長・病院長 小澤 顯一



HEALTHY COOKING

～ぶりの南蛮漬け～



新型コロナウイルス感染症は肺だけでなく血管にも影響を及ぼすと言われています。血液は血管を通過して体全体に栄養や酸素を運びます。血液や血管を強く丈夫に保つために効果的な食材は、青魚、生姜、玉葱、黒酢、昆布、ブロッコリー、トマトなどです。

今回は青魚のぶりが主役の一品で栄養バランスがとれるレシピを紹介します。



★材料（2人分）

ぶり切り身 70g×2切れ

A 下味

生姜（すりおろし） 10g

マヨネーズ 大さじ 1/2

B ぶり焼き用

片栗粉 大さじ 1/2

オリーブ油 大さじ 1/2

C たれ

玉葱（薄切り） 大 1/2 100g

人参（千切り） 中 1/4 50g

ポン酢 大さじ 2 と 1/2

黒酢 大さじ 1/2

砂糖 小さじ 1

塩昆布 1g

D 付け合わせ

ブロッコリー 60g

ミニトマト 4個

★作り方

- ① ぶりを一口大に切り、A の下味に 30 分程度浸ける。
- ② ①のぶりをキッチンペーパーで水気をとり、片栗粉をまぶし、油で焼く。
- ③ C の玉葱と人参は、耐熱用タッパーに入れレンジで加熱ししんなりしたら、その他の調味料と合わせる。
- ④ ③のたれに②のぶりを熱いうちに 30 分程度浸ける。
- ⑤ 付け合わせのブロッコリーを茹で、ミニトマトのへたを取り、洗う。
- ⑥ ④のぶりと⑤の付け合わせを皿に盛り付ける。

栄養価（一人分）

エネルギー	炭水化物	タンパク質	脂質	多価不飽和脂肪酸	食塩
297kcal	16.8g	18.1g	17.2g	3.55g	1.7g

